



福井市自然史博物館

博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER



ヤマドリ雄（2019年6月10日福井市深谷町 撮影：学芸員 出口翔大）

福井の自然史情報

ヤマドリの美しい尾羽

日本で最も美しい羽を持つ鳥は？ヤマドリの雄は有力な候補の1羽ではないでしょうか。光沢のある赤茶色の羽毛もさることながら、白黒茶色の模様が並ぶ長い尾には独特の美しさがあります。

早朝、林道に出てきた彼らと遭遇すると、とても得した気分になります。



中面に関連記事があります。

2019年夏季企画展



美しき鳥の羽

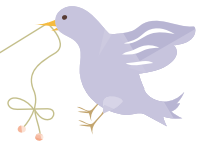


開催期間 2019年7月13日(土)~9月29日(日)

鳥の美しさや可愛さ、かっこよさ。彼らを魅力的に引き立たせる羽は、造形、そして機能性に優れた自然界の傑作です。羽はどのような役割を担い、進化し、その美しさは何故必要となったのでしょうか。

本展示では、日本野鳥の会福井県会員である鈴川文夫氏の膨大な野鳥の羽コレクションから選りすぐりの羽を展示し、はく製や図解も交えて、羽の不思議を分かりやすく紹介します。

企画展みどころ紹介



1 多様な羽

ピンで美しく留められた羽の標本箱を壁一面に展示。羽の数、そして色、模様、形の多様性にきっと圧倒されることでしょう。



鈴川文夫氏の野鳥の羽コレクション

2 羽の起源

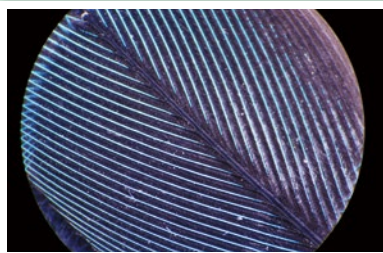
最初の「鳥」、始祖鳥の化石レプリカを展示し、羽の進化について紹介します。この化石からは太古の羽の痕がしっかりと読み取れます。

始祖鳥の化石レプリカ
野田芳和氏 所蔵



3 羽の構造と種類

羽は微細な構造から成り、生えている部位ごとにそれぞれ名前、機能が異なります。羽を深く知る上で欠かせない羽の構造と種類について写真や実物を用いて紹介します。



カワセミの尾羽 吉澤康暢氏 撮影



4 羽の役割

羽には飛ぶ以外にも、生きていくのに重要な役割があります。異性へのアピールや体の保護など羽に関係する鳥の興味深い生態を貴重なはく製も交えて紹介します。



5 羽のメンテナンス

鳥たちが生きていくのに大切な羽は日頃のお手入れが欠かせません。羽づくろい、水浴び、羽の抜け替わりなど、鳥たちの羽のメンテナンス方法を紹介します。



6 羽の利用

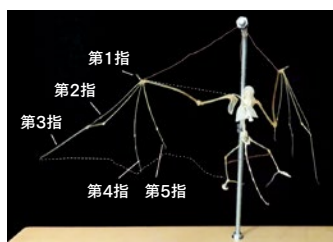
羽の恩恵を受けているのは鳥だけではありません。我々、人をはじめ鳥以外の生き物の羽の利用について紹介します。



翼をもつ生き物たち

コウモリの翼

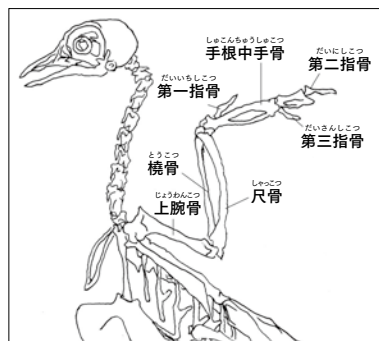
翼を持ち飛翔する哺乳類といえばコウモリですが、同じ翼でも、そのつくりは鳥類とまるで違います。まず鳥類の翼は骨から生えるたくさんの羽によって形作られますが、コウモリの翼は皮膚（ひく）によって形成されています。



ユビナガコウモリの骨格標本
(当館所蔵)

また、鳥類の羽は腕（しやっこつ 尺骨）や、人言う手の平（しゅこんちゅう 手根中手骨）、指の骨（しこつ 指骨）から生えており、ひじから先の腕で翼が

成りたっています。一方で、コウモリの場合、翼となる皮膚を支えるのは、主に長く伸びた4本の指（第2～第5指、つまりひとさし指から小指）の骨であ



鳥の骨格（イラスト）

り、ちょうど水かきのようなイメージの翼です。このような翼のつくりのおかげで、コウモリは鳥とは違って、傘のように翼をコンパクトに畳むことができます。

（文・写真・イラスト 学芸員 出口翔大）

よくか翼果

地面に根を張りその場から動けない植物が、唯一動き回ることができるのは、タネ（果実や種子）の時期です。親から伝えられた色や形などの遺伝情報と、芽が育つための栄養をたずさえて旅立つタネに与えられた役割は、新しい場所で芽を出し（散布）、子孫を増やすこと（繁殖）です。植物は、タネの散布と繁殖を成功させるために、タネの大きさや色、形などを多様に進化させてきました。

風は地球上のどこでも吹いていることから、タネの散布に風を利用する植物は世界中に広く分布しています。風に運ばれるタネの種類はとて多く、綿毛をもつもの、

翼をもつものなど、姿かたちはさまざまです。これらのうち、果皮の一部が成長し、翼になるものを翼果といいます。私達がよく目にするカエデ類の翼果は、2個



イロハモミジの翼果

がセットになって枝に付いていますが、熟して飛ぶ時には1個ずつに分かれ、くるくると回転しながら風に運ばれていきます。

（文・写真 学芸員 中村幸世）

よくそくるい翼足類

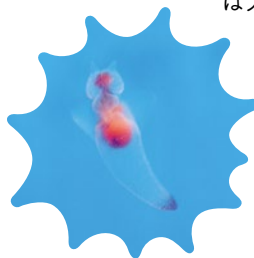
海に棲む貝というと、生まれて間もない幼生を除けば、海底で生活しているものがほとんどです。しかし、そんな貝の中に翼を持った種類が存在します。

翼足類とよばれる巻貝の仲間は、足が左右に広がって翼状になっています。残念ながら、空を飛べるわけではありません。翼足類はこの翼を使って海を漂い、プランクトンとして生活を送ります。中には、他の翼足類などを捕食するものもいます。

翼足類の代表とも言えるのが、「流水の天使」の異名を持つクリオネです。クリオネは裸殻翼足類とよばれ、

貝殻を持っていません。一方、ウキビシガイやカメガイなどの有殻翼足類は、薄く小さな殻を持ちます。両者は、かつては同じ翼足類としてまとめられていましたが、現在は大きく異なるグループに属するものと考えられています。

（文・写真 学芸員 有馬達也）



クリオネ

（協力：越前松島水族館
撮影：学芸員 加藤英行）



ウキビシガイ



カメガイ

鳥の羽 収集記

鈴川 文夫 (日本野鳥の会福井県会員)

羽を集めて28年に成るであろうか。“最初の一枚”でなく最初の事故死体を何気なく拾ったのが、これまで見た事のない鳥だった。片羽だけを頂き車の中で何日も経過した。機会が有って大先輩でしかもシギ・チドリに詳しい先生に見て頂く機会があり、羽の主はアオシギと確定。

それ以後、羽が落ちていると一枚の小さな部位で有っても拾い、「落とし主は誰だ!」と気になるようになった。そう簡単には分らないが、それがまた魅力。其々の働きや機能が有る事が分って来ると此れが又面白く、ますます羽の虜になった。

数が増えて来ると保管が問題になる。初めは工用のアルバムブックに差し込んでいた。だが、大きな羽を拾っても、これに入らない。北海道の探鳥旅行の宿泊所で大きなクリヤブックに羽が入っているのを見て「これだ」と、帰宅後早速に調達。ただし羽は羽軸がカーブしていて重ねると宜しくない。結果、ケースを作成して収納する事に。此れにも問題が生じてくる。ある種類の鳥の羽でも何回にも分かれて収集する為、手に入れてから数年後に再び同じ種類の羽を入手できても、ケース内に固定するだけのスペースがない。入手できるか出来ないのか、何時入手出来るのか分らない。そのため、入手を予測して開けて置く事も出来ないから一番厄介である。

換羽 (鳥の羽が抜け替わること) によって落ちた一枚の羽だ



自宅で羽の標本を作製する様子



著者の自宅の様子

《あとがき》

今号では、当館で7月13日から開催している夏季企画展「美しき鳥の羽」の見どころと、翼をもつ生き物の話題を取り上げました。企画展で展示している、日本野鳥の会福井県会員の鈴川文夫氏による膨大な鳥の羽コレクションをご覧いただくことで、羽の色や形の美しさ、面白さを感じていただけることと思います。私は、羽は飛ぶための物という意識が強かったのですが、今回の展示をとおして見方が変わりました。ぜひ展示をご覧いただき、驚きの羽の世界を感じてみてください。皆様のご来館をお待ちしています。(加藤)

《交通案内》

【電車】

- JR 福井駅から徒歩 30 分
- 福井鉄道福武線 足羽山公園口駅・商工会議所前駅 各徒歩 20 分

【バス】

- 京福バス：清水グリーンライン (74 系統) 足羽山公園下バス停 (あじさいの道登る)・不動山口バス停 (藤島神社登る) 各徒歩 10 分
- コミュニティバスすまいる：西ルート (足羽・照手方面) 愛宕坂バス停 徒歩 10 分

《ご利用案内》

- 開館時間 ● 午前 9 時～午後 5 時 15 分 (入館は午後 4 時 45 分まで)
休 館 日 ● 月曜日 (祝日は開館)、祝日の翌日、
年末年始
入 館 料 ● 高校生以上 100 円 (20 名以上の団体は半額)
中学生以下、70 歳以上、
障がい者および付添の方は無料

